

RAKUGO THE FUTURE

文:田中啓文

第 21 回:SF新人賞の取り方

先日、某カツラメーカーの人と話していると、そのカツラメーカーでは、カツラのことをカツラとは呼ばないそうである。その人の言によると、カツラというのは、まがい物の頭髪をまがい物の頭皮にくっつけた代替品というイメージがあるが、同社のカツラは、代替品ではなく、本物の頭髪よりも優れた艶、しなやかさ、耐久性を持つ頭髪を、本物の頭皮よりも優れた通気性、感触を持つ頭皮に植えつけたものであるから、実際の頭皮よりも一段上の、現実には存在しない頭皮という意味で「架空頭皮」と称しているそうだ。これに対して、実際の頭皮のほうには、ふけや汗は出るし、傷つきやすいし、できれば捨てて逃げてしまいたい存在ということで「現実頭皮」と呼んでいるという。これは本当の話である。

先日、アメリカ国防省の人と話していると、絶対に秘密ですが、と前置きしてこんなことをしゃべりだした。

ある海軍の将校が、最終任地であったアジアの某小島(ここで米軍の対中国の秘密任務についていたらしい)で重い風土病にかかり、やむをえず退役した。本国に戻って治療につとめたが、病気は直るどころかますます重くなり、とうとう寝たきりの生活となった。その病気とは、身体中から血や汗や精液や髄液やリンパ液といった体液が、目や耳や鼻や口や肛門やペニスやひどいときは汗腺全部から流れ出してしまうというひどいもので、その元将校は、見た目は全身から体液をどろどろと滴らせるモンスターのような姿であったという。国防省では、彼のことを「体液軍人」と呼んでいるという。「オヤジノウミ」を書いたあなたにだけそっと教えます、くれぐれもネタなどに使わないでください、とアメリカ国防省の人は念を押した。これはほんとうの話である。

先日……もうええ？　そうですか、

もうよろしいですか。もう二、三個続けようかと思っていたのだが、それでは「ラクゴ・ザ・フューチャー」が雑談で終わってしまうので、どうしようかと思っていたところである。

そろそろ今回の本題に入ろう。

最近では、日本SF大賞新人賞やSF大会における創作講座、小松左京賞など、SFをあからさまに標榜する新人賞や登竜門が増えてきた。一時は、ファンタジー系の賞やジュニア系の賞を取ってデビューするしかなかったSF作家志望者にとっては喜ばしい限りであろう。

昔、昔、その昔にも、SFの新人賞はあった。

実は、私は第一回の奇想天外新人賞にも応募している。新井素子さんが佳作入選して話題になったあの時である。第二回にも応募したと思う(このあたりの記憶はさだかではない)。この時、受賞したのが、今ではホラー坊

主として話題沸騰の牧野修氏と谷甲州氏である。こういう書き方をすると、牧野氏と谷氏の両方とも「ホラー坊主として話題沸騰」していると思われる可能性があるから、書き改めると、この時、受賞したのが、谷甲州氏と今ではホラー坊主として話題沸騰の牧野修氏である。新人賞に応募する時はこういうところにも注意を払うように。さて、私は、二回とも一次予選も通過しなかったが、何しろまだ中学生だったのである。いたしかたないのである(最近、某新人賞の下読みとかしてる、中学一年生とかでめっちゃめっちゃまい人がいてびっくりするが)。もちろん、ハヤカワSFコンテストにも応募した。これも一次で落ちたと思う(たしか、SFではなくホラーを書いたと思う)。その後、時は流れ流れ流れて、果てしなき流れの果てに、SFの賞というのはなくなってしまった。ミステリ系の賞は賞金何百万とか何千

RAKUGO THE FUTURE

文:田中啓文

第 21 回:SF新人賞の取り方

万とか何億とかいうのが目白押しなのに、SFに関しては短編を出せる場所すら存在しない状態が長く続いたのである。

私も、会社勤めが行き詰まっしまい、どうしても作家になるしかない、という切羽詰まった状況になった時、SFの賞がなかったのでとりあえずいろいろな新人賞に片っ端から応募したが、たまたま通ったのがジュニアの賞だったので、ジュニア作家としてデビューし、その後、紆余曲折をへて、ぐちゃぐちゃ系ホラーと駄洒落系SFの人となったのである。こういう人はいたいへん多いと思う。こういう人というのは、ぐちゃぐちゃ系ホラーと駄洒落系SFの人が多いというのではなく、SF作家になるためのステップとして他ジャンルの賞でデビューした人という意味である。今はSFの賞がちゃんとあるわけだから、SF作家志望の人は迷うことなくSFの賞に応募

すればよい。本来、ジュニアの賞やファンタジーの賞は、ジュニア小説やファンタジーが書きたい人が応募するべきであろうから、好ましい状態になってきていると思われる。本当は○○になりたいのに、方便として△△でデビューする、というのは、どちらのジャンルにとってもあまり好ましいことではない。アイドル歌手だった女の子が下手くそな女優になり、インタビューで「ほんとはもともとお芝居がしたかったしー、あんまり歌とか歌いたくなかったんでー、これで夢がかないましたー」とかいうのと同じである。ちがうか。それなら最初から女優を目指せ、馬鹿っ。

さて、何が言いたいかというと、SF作家になりたい！ SF系の新人賞を取りたい！ と考えている人たちに、私は、いかにすれば傑作SFを書けるか、を伝授したいと思う。

まず、ジャンル小説に応募するに

は、そのジャンルのことをよく知る必要がある。そもそもSFとはなんぞや。いろいろな説があり、百人いれば百一の説があるとも言われているSFの定義だが、私の理論によると、そのような定義付けは全く必要ないのである。あなたは何を書いてもよい。それで、その小説はSFになるからである。なぜか。

私はSF作家である。それはまちがいない。いや……まちがいがあるかな。い、いやいや、まちがいない、と思う。きっと世間も私のことをSF作家だと見ていだろう。なぜなら、私はSFの本を……あ、一冊も出してないや。ええいやかましい。こういうのは自己申告制度なので、たとえSFを書いてなくても本人がわしはSFやと言いさえすればSF作家なのである。どうだ参ったか。ところが、私は先日、「あらゆる作家はSF作家である」という理論を確立した。そればかりでは

ない。「あらゆる小説はSFである」という理論さえ打ち立てることができた。その論拠をご覧にいれよう。SFとはサイエンス・フィクションの略だといわれているが、今やSFの概念は拡大し、とてもそのようなことではSFの広大な領土を表現しきれない。では、今日において、SFとは何の略称であるというのか。それは以下のとおりである。

- SF……
S (サイエンス) F (フィクション)
- ミステリ……
S (推理) F (フィクション)
- ホラー……
S (スーパーナチュラル) F (フィア)
- サイコホラー……
S (サイコ) F (フィクション)
- ファンタジー……
S (精霊) F (ファンタジー)
- サスペンス……

RAKUGO THE FUTURE

文:田中啓文

第 21 回:SF新人賞の取り方

S(サスペンス)F(フィクション)

・海洋冒険……

S(セイリング)F(フィクション)

・官能……

S(セックス)F(ファック)

・恋愛……

S(失恋)F(不倫)

・純文学……

S(シリアス)F(フィクション)

・時代……

S(サムライ)F(フィクション)

・コメディ……

S(スマイル)F(フィクション)

・宗教……

S(セント)F(フィクション)

えーっとだいたいこれでジャンル小説は全てカバーしたと思うが、この表を見ても明らかだと思うが、全ての小説はSFなのであるということがよくわかりいただけたかと思う。

何？ ジャンル小説はまだまだあ

る？ それに、冒険小説はどうすんの、とか、恋愛小説は失恋と不倫ばかりじゃなく恋が実る場合もある、とかいった声が聞こえてきたので、それではそれら全てを包括的に含んだSFの定義を述べておこう。

SFとは、S(小説)F(フィクション)の略である。どうだざまあみろ。これなら、全ての小説をカバーするだろう。これで、私の「あらゆる作家はSF作家である」「あらゆる小説はSFである」という理論が正しいことがご理解いただけたかと思う。だから、あなたはSF系の新人賞に応募する時、SFを書かねば……などと思わずに好きなものを好きなように書けばいいのである。それでSFになるのである。

次に、もう一つ大事なことをあなたにだけ密かに伝授しよう。どんなものを書いてもSFになることは今も書いたとおりだが、新人賞を受賞するには、ただのSFを書いてもだめだ。「傑

作SF」を書く必要がある。

そのために、私は古今の名作とか傑作とか呼ばれているSFを読破・分析したのだが、その結果驚くべきことがわかった。すなわち、「名作と呼ばれているSFは全てネットしている」

おわかりか？ もう一度言う。「名作と呼ばれているSFは全てネットしている」

おわかりか？ もう一度言う。「名作と呼ばれているSFは全てネットしている」

おわかりか？ もう一度言う。「名作と呼ばれているSFは全てネットしている」

おわかりか？ もう一度言う。もういいって？ あ、そう。私としては、何度でも言う用意があるのだが……もういいの？

ほとんどのSFファンのかたは「あ、そうか！」と目からうろこが落

ちるような思いを今なさっていることかと思うが、これでは何のことかおわかりにならん、という人もいるかもしれない。だから、そういう飲み込みの悪い人のためにこれから論拠を示そう。

何でもいから、名作と呼ばれているSFの題名をあげてみたまえ。どこかネット、ぐちょぐちょ、どろどろ、べたべた、ねばねばしていることがわかるだろう。

たとえばハインラインの有名な「ネットセラの子ら」。全身がネットしている子供たちを描いたあの傑作も、この理論にあてはまる。同じハインラインの「人形つかい」も、ナメクジのかいのがでてくるという点で、この理論を実証している。

先日惜しくも亡くなった巨星ヴァン・ヴォクトも「ヌルAの世界」「ヌルAの傀儡」というヌルヌル系の2作を残している。このヌルヌル系に属する作家に筒井康隆氏がいることはあま

RAKUGO THE FUTURE

文:田中啓文

第 21 回:SF新人賞の取り方

り知られていないが、「ネオ・ヌル」という同人誌を主宰していたことから明らかである。このヌルヌル系の作品に耽溺することをヌルシズムといい、毎年「ヌルヌルマガジン」誌上でその年のヌルヌル系作品ベスト8が選ばれているのだが、これをヌルハチという。

ヌルヌル系の次はネバネバ系の作品を見てみよう。SFというよりはファンタジー色が濃いが、「ネバ・エンディング・ストーリー」などはその代表である。そういえばガイナックスにも「ネバングリオン」というネバネバ系の作品があった。作家でいうと、ネバリントン・ベイリーなどがある。

次は粘液系の作品だ。硬質なハードSFしか書かないように思われているアーサー・C・クラークにも、粘液系の傑作がある。「溶粘液の終わり」である。何でも溶かしてしまう粘液を分泌するブロップとスティーブ・マックイーンの戦いを描いたべとべとぬるぬ

るねちゃねちゃぐちょぐちょの作品だ。他にもジェイムズ・ブリッシュの宇宙都市シリーズ第一作「宇宙零粘」や、これはアンソロジーだがジュディス・メリルの「粘間SF傑作選」などがこのジャンルに属する。

ここまで例をあげれば、皆さんも、名作と呼ばれるSFは、どこかネトネトしているという理論が正しいことがわかっただろう。

何？ まだ納得できない？ 納豆食うできないというのはいけませんな。納豆はネトネトの原点である。では、そういう皆さんのために、最後の例を示そう。これなら納豆食うしていただけたと思う。あの、SFの詩人とまで言われたレイ・ブラッドベリの最高傑作といえば……そう、「火星粘唾液」である。火星に移住した移民の子孫は、なぜか唾液がネトネトになる。そういう生理的な変化がもたらす悲喜劇を詩的な情緒あふる筆致で表現した傑作

中の傑作。

そうですか、よかったよかった。ついにあなたも納豆食うしてくれましたか。

え？ 今あげた以外にもSFには傑作がいっぱいあるけど、それらのタイトルはネトネトしていないって？ ふふふふ……それはね、あまり言いたくないんですけどね、まあ、ここまで来たら言ってしまうんですけどね、大きな声じゃ言えませんが、それらの作品は実はたいしたことないんですよ。傑作とか名作とか言われてるかもしれないけど……ほんとはクズみたいなもん。ネトネトしてないような小説が……はは……あはは……あんなもののどこが……傑作……あははははは……冗談もほどほどに……うふふふふ。あのねえ、出版社の宣伝やアオリをうのみにしてたらだめですよ。ネトネトは自分で読んで探さなきゃ。わかる、奥さん？

これで、傑作SFを書くには、内容

やタイトルをネトネト、ベトベト、ねちゃねちゃ、ぐちょぐちょ、どろどろ、ぺたぺた、ぬめぬめさせておかねければならないということがわかったと思う。SFの新人賞を狙っている人は、このことをよく粘頭において、傑作が書けるように粘ずることだ。

粘ずるものは救われる。